

学位論文内容の要旨

学位申請者	子浦 恵 【人間発達科学専攻 平成23年度生】	要 旨
論文題目	学力と学習意欲の階層間格差 —ケニアの初等教育を事例として—	本研究は、ケニアの初等教育を事例として、子どもの学力と学習意欲の階層間格差について実証的に示したものである。具体的には、(1) 社会経済的背景が不利な家庭の子どもの学力向上に効果的な要因は何か、(2) 社会経済的背景と親の関与は子どもの学習意欲にどのような影響を与えているのか、2つの課題を検討し、社会経済的背景が不利な子どもの学力と学習意欲向上に効果的な要因を検討した。主要な知見は次の通りである。
審査委員	(主査) 教授 浜野 隆	①低階層校の平均点には、社会経済的背景よりも PTR (教師児童比率) や教員の問題行動 (読解のみ)、宿題回収率 (読解のみ) といった学校要因のほうが強い影響を与えている。 ②低階層児童の学力には、農村部では「学校給食」や「教員資格」、「教員研修」、「教員の問題行動 (アルコール依存症、授業をさぼる、薬物依存)」、都市部では「学校給食」や、「図書室」、「学校の建物」、「校長の資格」、「成績への学習のコメント」、「宿題の回収、解説」、「教員の問題行動 (児童をいじめる、薬物依存)」が影響を与えている。 ③社会経済的背景を統制した上で、「幼い頃の働きかけ」と「学習時間」は子どもの学力に影響を与えていた。また、親が「子どもとの会話」を積極的に行うほど子どもの自律的学習意欲は高まり、「子どもとの会話」と「基本的な生活習慣づけ」、「勉強への働きかけ」を積極的に行うほど、子どもの勉強に対する好奇心や関心は高まる傾向が示された。 ④社会経済的背景が不利な家庭における親の積極的な関与は、子どもの感情を肯定的にし、学習場面の達成行動を促進する。また、社会経済的背景が不利な家庭でも親が積極的に子どもの教育に関与することによって、子どもの自己効力感が高まることが示唆された。
	准教授 富士原 紀絵	
	教授 池田 全之	
	准教授 荒木 美奈子	
	教授 小松 太郎 (上智大学 総合人間科学部)	
	(空欄)	